

東京都心でも数年ぶりの大雪が降り、その後の寒さも大変厳しいものでした。あまりの大雪のため、雪の音をじっくり聴く余裕はあまりありませんでしたが、皆様は如何でしたでしょうか。雪が降る音、雪を踏む音、積もった雪が落ちる音、雪かきの時のスコップの音……。春の音も楽しみなこの頃です。

【ニュース】

ヨイサの会・ワークショップ

2017年11月18日（土）午後2時～4時30分・明星大学にて

このワークショップは、明星大学で毎年開催されている子育て関係のワークショップ事業の一環として行われました。講師は、ヨイサの会（横川・池田・斉藤・佐藤）の4人。今回の参加者は保育士の方々約10名で、中には初任の方もおりました。

今回のテーマは「カントオーラ」。

私たちが様々な活動を通じて伝えてきた、大切な心。「どうやって子どものモチベーションを上げるか」、「活動の中で子どもが出してきたもの（感じたことや発想力）を、いかに受け止めて一緒に楽しむか」ということ。そのためには、子どもの思いをしっかりと受け止める〈勘〉と、「これってこんなに楽しいんだぞ」という先生から出る〈オーラ〉が必要。これぞ〈勘〉と〈オーラ〉で〈カントオーラ〉なのです。

幼児でも「音」に興味をもち、自ら「音を聴く」ようにすることで、音に集中して心を向け、「音を楽しむ」ことができます。その具体的な方法を展開していきました。

初めは「音を聴く」。身の回りの様々な物から出る色々な音色を、目を閉じて聴いてもらいます。自分が感じるままの自由な聴き方で音を受け止めていきます。聴いてもらった音は、音を出した人（講師）が「いいなあ、面白いなあ」と感じる音。音と共にその「いいなあ」を一人一人に伝えます。参加者の方々は、普段の生活にはほとんどない「目を閉じて音だけに心を向ける」ことによって、改めて音の多様さ、面白さ、楽しさを感じ取っていました。工作用紙、ピン、空き缶、マレット、アルミホイルなど、何も加工していない物やハンカチガーゼの中に入れた様々なもの（色々な長さのストロー、ピスタチオの殻、）などなど……。

実はこの研修会の始めから、参加者の皆さんの表情が硬く、「一体何をやるの？」という不安な様子が広がっていました。講師も半ば心配しながらの活動でしたが、音を聴き、感じ方を伝え合っていくうちに、だいぶその雰囲気が柔らかくなっていきました。そして「音を自分の心で聴いた子どもたちの自然なつぶやきを温かく受け止めていきましょう」というメッセージに納得の表情が表れました。

次のコーナーは「マリンカン」作り。今回はコーヒー缶に3cmと5cmのアルミテープでの作成でした。本号の後のコーナーでも紹介していますので、どうぞご覧ください。休憩を挟み、「フーコ」



の作成。コーヒ缶を胴体として風船を鼓面にしてつくり、完成後は副理事長（アッキー）作の「きいてごらん」の曲に合わせて合奏しました。他に風船とストローで作る「ピーブー」、ヤクルトのビンとストローで作る「ポップー笛」も作成。最後は、大人気の「風飛行機」。今回はA4のコピー用紙で作り、その飛行を楽しみました。

音の展覧会とワークショップ

12月2日（土）中野ZERO美術ギャラリー 10:00～15:00

午前中は楽器の展示でした。4つのコーナーに分かれ、池田理事長・副理事長、佐藤・横川両理事の4人が各テーブルに思い思いの楽器を設置し、そこに来ていただいたお客様に学芸員として説明していきます。「音を聴く」で使っているお馴染みの身の周りの私たちが「環楽器」と呼び、生活用品が多くを占めていました。



見栄えもよかったのは、「吊るし物」。木の枝や表面を加工した棒には様々なものが吊るされています。飲み物の缶の上面部分、小さなシャンプー容器、短くなった鉛筆、浜辺で拾った珊瑚などが、それぞれきれいに列をなして20個ほど。小さな暖簾のようになっており、揺るとサラサラ、カラカラと気持ちのいい響きをたてます。触れているうちに、「そうだ、あれを吊るしてみたらきれいだし、音も素敵かも」と想像を広げてくれます。どれも見た目ではどうやって音を出すのかわかりません。学芸員が説明して参加者が自分で音を出すと、思わず笑顔になります。

午後は同じ場所でのワークショップ。「音を聴く」、「楽器作り」（マリンカン・スーパー紙鉄砲・フーコ・ピーブー・ポップー笛）が行われ、最後は展示物も含めて「みんなでアンサンブル」を楽しみました。



また、この日はミャンマーから日本の音楽教育を視察にいらした方々が、その一環として見学にいられていました。現地の学校の先生、政府の教育機関の方、NHK 国際放送局のディレクターの方やそれをサポートする日本の「音楽と社会デザイン学」の博士などが大変興味深くご覧になっていました。その方々は次のように述べていました。

「ミャンマーには日本の学校に設置されているような楽器がありません。瓶、缶、新聞紙、ペットボトル、食器など今回展示されたりワークショップで使ったりされたような身の周りの物で、こんなにも豊の音が展開され、それを楽しむ心を広げていくことができるのは驚きである。これまで日本のいくつかの学校を視察してきたが、ここで行われたことは最もミャンマーに適している。ぜひこちらに来たいいただき、現地でこの活動を子供たちに体験させてほしいです。」



－シリーズ手作り楽器 ～マリンカンその2～

理事長：池田邦太郎

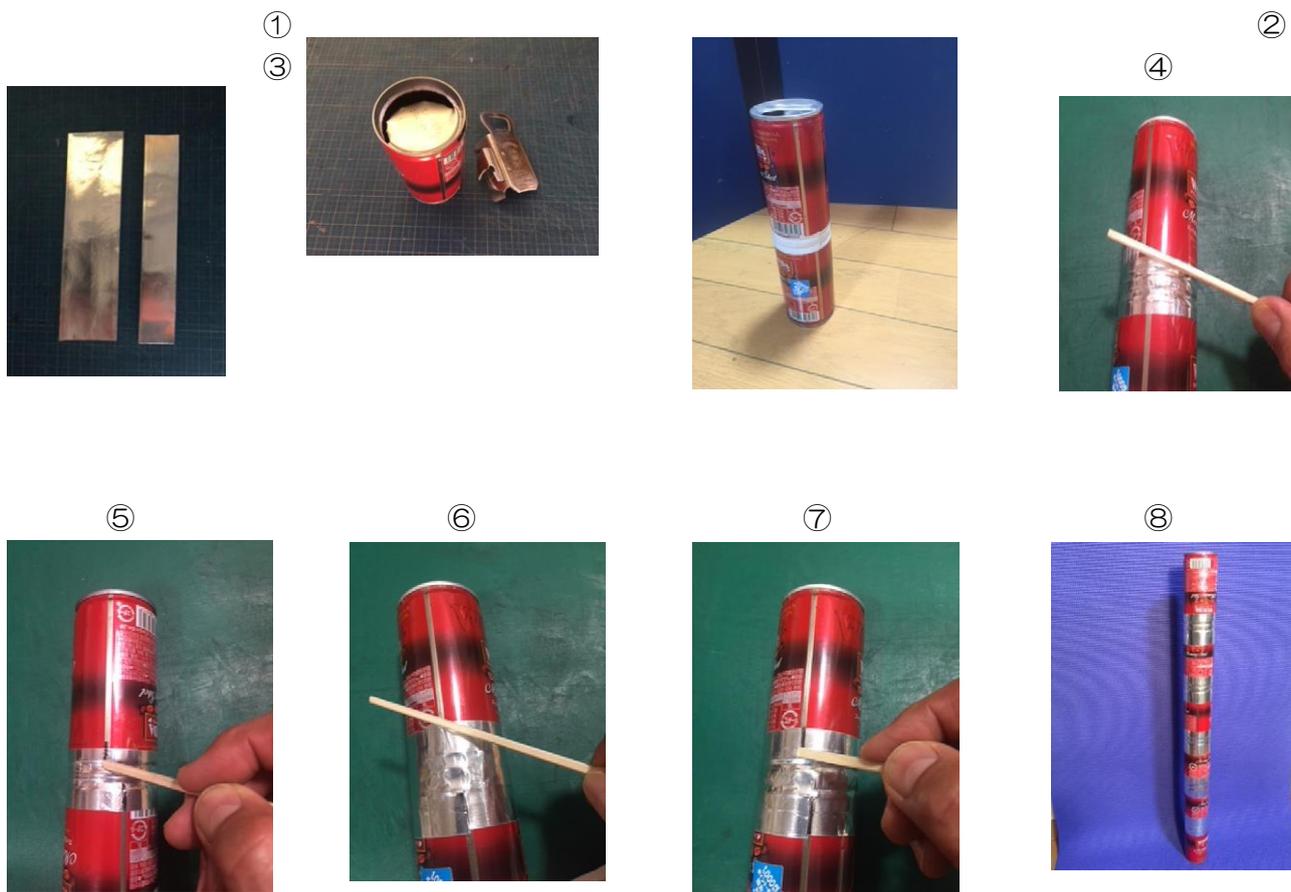
水の流れる音は私たちの脳と身体に優しく響き、心を癒やしてくれる自然の音です。そんな流水音を何時でも何処へでも携帯できる音具【マリンカン】。前は空き缶2本で作りましたが今回は6本バージョンです。水の流れる音や振動が20～30秒も連続して楽しめる優れものです！

【用意する物】

- 缶コーヒーの空き缶4本以上複数本（今回は6本使用）
 ※底部が金属色の缶を使用します。底部白色は缶切りが使えないので不可。
- 百均で売っている幅5cmのアルミテープと割箸1本

【作り方】

- 1) 長さ18cm×幅5cmと長さ18cm×幅3cm（もったいないときは、幅5cmのものを3cmの幅に切ってください）のアルミテープ（写真①）を各5本用意
 - 2) 底部を缶切りで半分以上開けた缶（写真②）を4本つくる
 - 3) 何もしていない空き缶の上に2)の缶を重ねてセロテープで仮止めする
 （写真③では目立つように白色テープを使用）
 - 4) 幅3cmのアルミテープをセロテープの上から貼り、箸で擦ってシワを伸ばす（写真④）
 - 5) 繋ぎ目の僅かな窪みを箸で擦って隙間を埋める（写真⑤）
 - 6) 5)の上に幅5cmのアルミテープを重ねて貼り、箸で擦ってシワを伸ばす（写真⑥）
 - 7) 繋ぎ目の僅かな窪みを箸で擦って隙間を埋める（写真⑦）
- 1) 3)のセロテープで仮止め、から7)の行程を繰り返して5本つなげます。缶コーヒー3本分の水を入れてから何もしていない6本目の空き缶を伏せて乗せ、3)のセロテープで仮止め～7)で出来上がり！（写真⑧）



※写真④⑥ではアルミテープがツルツルになるまで徹底的に擦って下さい
 ★お年寄りが胸に抱えて「この振動がたまらなく好き！」
 ★アブを垂けて目を閉じ、海の中の不思議な音！



【今後の活動予定】

～ご参加などについては、本会事務局までご連絡ください～

- ★3月12～16日 ミャンマー ワークショップ（主催：社会デザイン学会）
- ★4月23日（月）畑町ガーデンにて自由連弾 9：30～12：00
- ★5月27日（日）ワークショップ 14：00～16：00
- ★5月28日（月）畑町ガーデンにて自由連弾 9：30～12：00

■賛助会員を募集しています！

本会の活動は殆ど全て会員の皆様の会費で賄われています。本会の事業の趣旨に賛同し、ご支援していただける方は、是非賛助会員になってください。現会員の方は、お知り合いの方などにお声をおかけください。賛助会員になってくださる方（または誘ってくださった会員の方）は、まず下記の事務局までご連絡ください。

賛助会費は、年間3000円です。よろしくお願ひ致します。

振込先

- | |
|-------------------------------------------------------------------------|
| ① ◆三菱東京UFJ銀行 向島支店 ◆口座番号：普通 0088065
◆名義名：NPO法人 音を楽しむONGAKUの会理事長 池田邦太郎 |
| ② ◆ゆうちょ銀行 ◆口座記号：10090 口座番号：18396671
◆加入者名：トクヒ）オトヲタノシムオンガクノカイ |

NPO法人 「音」を「楽」しむONGAKUの会
〒131-0032 東京都墨田区東向島2-34-12 サニーフラット202号
PHONE & FAX：03-3610-2292
E-mail otoiawase@oto.or.jp
URL：http://www.oto.or.jp/
facebook：https://www.facebook.com/ototano/